

小学校の指導改善プラン（令和２年度）

九段小学校

達成度調査等及び児童の学習状況から見た成果と課題				○成果	▲課題
	第４学年	第５学年	第６学年		
国語	○話す力・聞く力の観点と音声言語の領域は平均正答率が88%以上であり、概ね定着している。 ▲書く力・読む力、文学的文章の定着に課題がある。	○話す力・聞く力で平均正答率が95%であり、概ね定着している。 ▲書く力・読む力の定着に課題がある。	○音声言語と文学的文章の領域は、平均正答率がともに90%以上であり、概ね定着している。 ▲説明的文章の定着に課題がある。		
社会	○社会的事象の知識・理解については、正答率が81.8%と概ね定着している。 ▲社会的な思考・判断・表現の正答率が57.6%と低く課題である。	○公民的内容については、正答率78%とほぼ定着している。 ▲社会的事象の知識理解について課題がある。	○公民的内容については、正答率80%とほぼ定着している。 ▲観察資料活用 of 技能について課題がある。		
算数	○数量関係の領域では平均正答率が78.6%で概ね定着している。 ▲全体的に区平均を下回っており、特に図形の定着に課題がある。	○数と計算では、平均正答率が83%で、概ね定着している。 ▲量と測定では、正答率が7割を下回り活用する力に課題がある。	○学力層のA層が、昨年度に比べて10%以上増えた。 ▲数学的な考え方の平均正答率が42.9%で、二極化の傾向があることが課題である。		
理科	○全観点、領域において区平均を上回っており、概ね定着している。 ▲物質・エネルギーの領域において正答率が71.6%であり、定着に課題がある。	○知識の定着が見られる。 ▲観察・実験の技能について課題がある。	○技能や知識・理解は、平均正答率が80%を上回り、概ね定着している。 ▲科学的な思考・表現は二極化していることが課題である。		
授業改善の方針					
国語	・一人一台端末を利用して家庭学習を中心に「ミライシード」に取り組み、漢字や言葉の使い方の定着を図る。毎月末、朝学習で漢字の時間をとり、漢字の定着を図る。また、外部機関の準会場として漢字検定を実施する。 ・書く力を高めるために、低学年では日記や視写に取り組む。中・高学年では、川柳やスピーチ原稿などの指導を充実させたり、家庭学習で日記を取り入れたりする。また、目的意識をもって書く活動ができるよう、作文集「九段の子ども」を発行し、全学年が作文に取り組む。第6学年では、全員「千代田ジュニア文学賞」に応募する。 ・図書室の本から様々な種類の本を学級文庫として各学級に配布し、文章の構成や展開を捉えたり、内容や要旨の理解を深めたりするため、朝読書で幅広い読書を推進する。				
社会	・地図帳や、統計・年表などを活用したり、白地図や新聞にまとめたりする活動を充実させる。 ・社会的事象について考えたことを、資料を用いて説明したり、根拠や理由などを明確にして議論したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力を養う。				
算数	・一人一台端末を利用して「ミライシード」や「Qubena」に取り組み、既習事項の定着を図る。 ・低学年では、週3時間ティームティーチング、第3～6学年では習熟度別で少人数指導を行う。理解が不十分なクラスでは、「東京ベーシックドリル」を活用し、定着を図る。また、土曜授業の際には、全学年「東京ベーシックドリル」に取り組む。 ・思考力・判断力・表現力の育成のため、問題解決場面では、自分の考えをノートに書いて説明したり、スカイメニュークラスの機能を使って、オンライン上でお互いの考えを共有したりする。また、コンピュータを活用し、プログラミングを体験しながら論理的思考力を養う。				
理科	・理科が苦手な児童も実験・観察の結果を基に、結論を導き出せるよう丁寧に考察を行うなど、スモールステップで指導を行い、問題解決の力や自己肯定感を高める。 ・実験・観察から考察したことなどを意見交換したり、根拠を基に議論したりして、対話的で深い学びの実現を図る。				
音楽	・グローバル化する社会を視野に入れ、音楽の人類遺産ともいえる時代や地域を越えて伝えるべき楽曲と出会い・触れる機会を拡充させ、豊かな感性の育成を図る。各自の個性や技能を生かし高めることができるよう、個別・グループ・全体等の場と、効率的な時間設定の工夫を組み合わせで充実させ、学習を展開する。				
図工	・造形的な見方・考え方を深めるために、発想の視点を明示したうえで、ICTを活用し発想の方法を丁寧に伝える。 ・造形的思考力を高めるために、表したいものや感じたことについて言い表す言葉を児童から引き出ししたり、教師が例示したりするなどして、言語活動を活性化させる。 ・児童の特性に応じて発想を引き出すために、声掛けの内容やタイミング、資料提示などを意図的・計画的に行う。				
家庭	・実習等のレポート作成や考察、思考したことを発表するなどの言語活動を充実する。また、情報通信ネットワークを活用して調べたり、気付いたことをコンピュータで共有したりするなどして、主体的・対話的な学びを実現する。				
体育	・体力の低下を補うため、時間走や短縄などの体力を高める運動を授業冒頭などに取り入れる。 ・チームで行う単元の実施が不十分であるため、2年間の単元計画を見直し、これまでにやっていない単元を重点的に行うようする。				
外国語	・アルファベットの順番や文字を定着させるため、短時間学習の際に繰り返し取り組むようにする。 ・高学年の外国語科では、振り返りの時間を設け、児童が自分で到達度を確認できるようにする。 ・ICTを活用して「聞く・読む」の習熟を行い、録画機能や録音機能を活用し「話す」の習熟度を自分で確認できるようにする。				